

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・定額給付金の効果があり、今までは店内に入ってきた客からも購買意欲は感じられなかったが、今は購買意欲がはっきりと感じられる。また、単価を少し下げること、客は好感を持って購入している。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・来客数は3月の前年比から約6ポイントほど上がっており、前年比約96%である。今年は天候が良く、婦人服の売上が回復傾向にある。食料品店もイベント催事が好調であり、客単価、1品単価は若干下がっているものの、購買率が上昇している。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・少しではあるが、プレミアム付き商品券が利用されている。客は少しでも安い物を購入する傾向が強く、店として商品の付加価値を考慮する必要がある。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・エコポイント制度やプレミアム付き商品券等の景気対策が奏功し、客単価の上昇につながっている。
		乗用車販売店（管理担当）	お客様の様子	・環境対応車の補助金に対する客の反応が良く、車の受注が増えている。
		その他専門店 [コーヒー豆] （経営者）	お客様の様子	・前年に比べ、夏場商戦に向けた商品が比較的早く動いている。通常は梅雨の時期で客の出入りは少ないが、今年はまとまった雨も降らず、客の出入りが多少多い。
		高級レストラン （経営者）	来客数の動き	・今月後半になって予約の入り方が良く、今までにない状況となった。今年に入って一番良い月となった。
		高級レストラン （支配人）	お客様の様子	・新型インフルエンザの影響も少し落ち着き、外食を避けていた客の利用が増えつつある。3か月前と比べて、来客数、客単価は少し上がっている。
		観光型旅館	販売量の動き	・旅館組合事務所への来客数がわずかながらも増えており、その分売上も若干増えている。これは高速道路料金引下げによるものと考えられ、来訪者の自動車のナンバーは首都圏や東海・関西方面を中心に増えている。
		通信会社（総務担当）	お客様の様子	・客の動きがやや良くなりつつあり、消費動向がやや上向き傾向にある。当社へのアプローチも良くなるものと期待でき、景気はやや上向きつつある。
		ゴルフ場（支配人）	お客様の様子	・依然として料金に対する反応は敏感であるが、来場者数は少しずつ増え始めている。
	変わらない		商店街（代表者）	お客様の様子
		商店街（代表者）	お客様の様子	・実用品の動きがあり、早め買い換えをする客が増えつつある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・梅雨に入り蒸し暑い毎日であるが、商店街には空調設備がなく、鮮魚店や青果店が高温多湿のため、商品を早期にしまい、シャッターを下ろしてしまう。そのため、来客数が少ない状況である。
		商店街（代表者）	単価の動き	・客の動向をみる限り、相変わらず低迷している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・中心商店街の大型店が3月に閉店し、徐々に影響が出始めており、来街者数がかなり少なくなっている。
		一般小売店[青果]（店長）	それ以外	・客単価、売上、客の様子すべてにおいて変わらないが、特に青果物の相場が上がらず、厳しい状態が続いている。
		一般小売店[茶]（販売・事務）	来客数の動き	・暑くなり、客の買物頻度は低下している。まとめ買いをする客もいなくなり、全体的に売上は前年を大幅に下回っている。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・リニューアルをしたため、来客数は増えているが、売上高は上がらない。リニューアルが未完成であるせいもあるが、高いものは買わず、必要な物以外は買わないという客の傾向は続いている。
		百貨店（総務担当）	単価の動き	・新しいテナントが入店しており、来客数は前年を上回っているものの、客単価の大幅な下落と目的外商品の購買が全く無い状況が続いており、大変厳しい状況である。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・食料品部門を除き、売上高は前年比2けたの減少となっている。特に衣料品の動きが悪い。

百貨店（業務担当）	お客様の様子	・春先に比べると客の購買意欲は向上している。定額給付金の給付が追い風になっているのか、慎重ではあるものの、納得すれば購入する客が増えている。
百貨店（営業企画担当）	来客数の動き	・全店の売上は大きな変化はなく推移している。近郊の競合店の閉店の影響もあり、一部に好転の兆しはあるものの、厳しい状況は依然として続いている。
百貨店（企画）	販売量の動き	・売上や販売量に目立った動きがない。前年秋以降と同様に低い水準で推移している。また、九州圏内の同業他社の動きも同様に推移している。小売業では一般消費者の景況感が上向きにならない限り、多少の変化はあっても低水準のまま推移する。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年並みに戻っている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・価格競争がだんだん激しくなってきた。売上の確保に价格的な部分が強く影響し始めており、現在は横ばいで推移している。
スーパー（店長）	販売量の動き	・衣料品の売上が前年比80%とかなり苦戦している。食料品は精肉以外は上向き傾向にある。
スーパー（総務担当）	単価の動き	・来客数は横ばいであるが、客単価が前年比5%程度落ちている。低価格商品の動きや、買上点数の減少が客単価の減少につながっている。
コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・客単価が前年よりかなり低下している。客の財布のひもはかなり固く、必要最低限の物の購入にとどまり、節約傾向が強まっている。
コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・前年に比べても前月に比べても目的買いの客が多く、ついで買いの客が少ない。そのため、客単価が上がらない。
コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・週末のセールを実施したり、カードポイントを増加するキャンペーン等を実施すると客の購買意欲は上がる。一方、通常の単価でそのまま営業を行っていてもなかなか販売に結びつかず、これまでと変わらない。
衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・洋服の単価は3,000円と高いと判断する客が増えている。以前はそのようなことがなく、厳しい状況が続いている。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・一部の客に向けてのシークレットセールが異例なくらい早く始まり、点数はある程度出るが利益率は良くない。今までにない事態である。
衣料品専門店（店員）	単価の動き	・セールがどんどん早くなっており、正価販売品を買う時もセールに備えて控え目になっているため、客単価は低い。これまでは定価で買っていた客もセールでの購入機会が増えている。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・客単価が上がらず、来客数も大幅には増加していない。ここ数か月間同ような状況であり、景気対策等が行われているが、動きは非常に鈍い。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ハイブリッド車のみが売れており、他の車は売れていない。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・自動車に対する優遇制度が適用され、対象の車種に乗っている客が新車に買換えるということが多少出てきているが、一部の話であり、全体の需要回復にはなっていない。
その他専門店〔書籍〕（店長）	お客様の様子	・売上の減少が続いており、景気は冷え込んでいる。無駄な物は購入しない傾向が依然続いている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	お客様の様子	・燃料油の小売価格がやや値上がり傾向にある。しかし客の購入の様子をみると、前年とは違い、ほぼ満タン給油をしており、燃料油購入についてちゅうちょする様子はない。賞与の支給時期も近づき、どちらかと言うと明るい様子がうかがえる。
スナック（経営者）	単価の動き	・来客数は回復傾向にあるものの、客単価は相変わらず低水準で推移している。客の財布のひもは依然として固い。
その他飲食〔居酒屋〕（店長）	来客数の動き	・来客数が少なく、電話も鳴らず開店休業のような状態である。17時からの営業であるが、ピヤガーデンに行く客が多く、当店へは21時半～22時の来店が多い。その時間には客は既に満腹になっている状態であり、注文はほとんどない。

	観光型ホテル (営業担当)	競争相手の様子	・地域内で古くから営業している同業者の廃業があり、地域全体の宿泊客室数が減少し、大会等の誘致に影響が出ている。また、ビジネスホテルを中心に宿泊料金の値下げがあり、価格競争が激化している。
	都市型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・依然として客単価は下落してはいるが、底打ちしてきている状況である。
	都市型ホテル (副支配人)	単価の動き	・個人の動きが全くなく、特に火、水、木曜日の動きが悪い。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・新型インフルエンザの影響と景気の先行き不安により、動きが非常に悪い。景気対策の効果もあまりなく、予約状況も悪い。
	タクシー運転手	来客数の動き	・ボーナスシーズンであるが、ボーナスが減額されたり、全く出ないという声が良く聞かれる。また、値段を下げて商品が売れないという店主の声も聞かれる。
	通信会社(業務担当)	販売量の動き	・夏のキャンペーンも始まり、新商品が発表されたものの、出荷遅れがあり思ったほど販売できていない。また、販売ボリュームが見込める格安商品も少なく、買換え台数が前年と比較して大幅に減少している。
	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・梅雨時期となり、個人旅行やゴルフ客は少ないが、地元施策による地元客の集客を行い、横ばいで推移している。
	ゴルフ場(従業員)	単価の動き	・ゴルフのプレー料金の単価を安くしないと客が来ない。安い企画をすることで集客を得られるが、そのために客単価は減少している。利用客数を増やして、売上を確保している。
	美容室(経営者)	販売量の動き	・景気は数か月間、低迷したまま推移している。
	音楽教室	お客様の様子	・テレビ等によると住宅ローンの崩壊や企業倒産が相次いでいると報道されているが、当社の客を見る限り、良いとも悪いとも言えない状況にある。ボーナスの影響によるものか、売上は右肩上がりの状況にある。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・問い合わせ件数は前月と変わらない。宅建業者の問い合わせが増えており、景気は良くなっている。一方、一般の客からは価格を下げてくださいと言う要求が多く、景気は悪い。総じて、変わらない状況である。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	単価の動き	・客は新しい物は買わず、持っている物をリフォームして今をしのいでいる様子である。
	百貨店(営業担当)	それ以外	・来客数は前年をやや下回っているが、購買率が上がっている。それを下支えしているのは、景気対策であり、特にエコポイント制度の効果が出始めている。しかし、3か月前に比べると販売量は確かに増えてきたが、客単価は極めて低い。
	スーパー(店長)	単価の動き	・商品の1点単価が前年より7%低下し、特に衣料品は前年を10%下回っている。企業努力により、販売単価は衣料品や食品、住関連を始め、少しずつ下がっている。そのため買上点数を更に増やす必要があるが、消費者は必要な物しか買わない状況が続いており、買上点数は前年割れの状況となっている。
	スーパー(店長)	単価の動き	・定額給付金の効果が薄らぎ、商品単価の下落傾向、相次ぐ競合他社の出店に加え、レジ袋有料化が開始され、買上点数の減少、特売回数増加により、客単価が低下し、特に食料品において影響が出ている。
	スーパー(企画担当)	販売量の動き	・景気の底打ち感や内食傾向が報道されているが、実際の消費者動向としては、必需品である食料品や雑貨類において、低価格志向は変わらない。特に買い控えの傾向が強く、全般を通して販売数量が減少している。
	スーパー(経理担当)	販売量の動き	・前年は原価の上昇による商品単価の上昇やガソリンを始め全体的に価格高騰があり内食化が浸透したが、今年はそれほどでもない。また、客のディスカウント店へのシフトが顕著になっている。
	コンビニ(販売促進担当)	販売量の動き	・小麦粉の価格が上がり、菓子パンが値上げされた。また、他社に対抗して安価な商品を打ち出したことにより、客単価が下がり、売上が減少した。
	衣料品専門店(店長)	販売量の動き	・売れる日と売れない日の差が大きく、回復傾向にあるとは言えない。

		住関連専門店 (経営者)	来客数の動き	・毎月行っているキャンペーンの状況が今月は良くなかった。今月の売出しは予想以上に来客数が少なかった。また景気対策が行われているが、定額給付金は家具購入には使われない。
		観光型ホテル (スタッフ)	競争相手の様子	・婚礼において近隣に新規施設がオープンし、それに伴い他社のリニューアル等もあり、競争は激化し苦戦している。一般宴席に関しても大規模宴席がなく、前年を大きく下回っている。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・前月比でも宿泊客が激減しており、宴会も総会シーズンであるにもかかわらず、ホテル利用の中止や規模縮小が増加している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・平日の空港からの県外客が少なく、週末は人の動きが少しはみられるが、平均するとタクシー量は少ない状況である。
		タクシー運転手	単価の動き	・客は値段に敏感で、少しでも安いところに動いている。客単価が非常に下がっている。
		タクシー運転手 通信会社(企画 担当)	来客数の動き 販売量の動き	・歓楽街の動きが非常に悪く、閉店する店が多い。 ・期末の需要増が終息し、悪くなっている。
		美容室(店長)	お客様の様子	・サラリーマンの動向が悪い。
		美容室(店長)	来客数の動き	・来客数の減少に慣れてしまい、たまに来客数が多いと景気が良くなったのかと錯覚してしまう。集計してみると3か月前より減少している。
	悪く なっている	一般小売店[鮮 魚](店員)	販売量の動き	・これ以上悪くならないだろうと思っていたけど、簡単に悪くなった。季節的な要因を外しても、例年以上に売れていない。一方、内食化の影響が今年は父の日に鉢盛の注文が少し来た。
		一般小売店[生 花](経営者)	販売量の動き	・父の日があったが、最近は花をプレゼントとして購入する客が少なくなり、需要はほとんどないに等しかった。花の需要がないので、売上は落ちている。
		百貨店(営業担 当)	お客様の様子	・夏物の先行値下げや催事等で集客に努めているが、厳しい状況である。
		百貨店(営業担 当)	競争相手の様子	・市内の大型店、百貨店共に売上は前年比80%台と非常に厳しくなっている。
		衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・客単価が下がってきている。
		衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・景気は悪いままであるが、デザインの凝った婦人服は動いており、売行きとしては悪くない。メーカー側も必死のようである。しかし、低単価の商品が主流になっており、売上は伸びない。
		高級レストラン (専務)	来客数の動き	・鹿児島は大河ドラマの効果も薄まり、集客力が落ちている。何か大会がない限り、客の流れは悪いままである。
		一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・宴会の需要が減っており、厳しい状況である。
		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・同業他社の新規出店があり、低迷しているビジネス客層も分散し、来客数が減少している。
		旅行代理店(業 務担当)	販売量の動き	・3か月前と比較して、ゴールデンウィーク直前から発生した新型インフルエンザの影響が大きく、動きが鈍い。
企業 動向 関連	良く なっている やや良 くなっている	-	-	-
		食料品製造業 (経営者)	取引先の様子	・取引先からのサンプルや新商品の開発、見積依頼等の問い合わせ件数が増加している。
		電気機械器具製 造業(経営者)	取引先の様子	・大手、中堅企業共に電子部品関連の半導体リードフレームやコネクタ関連等の動きがやや出始めている。受注確保までには至らないが、問い合わせはかなり出てきており、やや良くなっている。半導体の装置関連も少しずつ動き始めている。
		輸送用機械器具 製造業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・取引先の生産が増えており、やや良くなっている。
		輸送用機械器具 製造業(営業担 当)	受注量や販売量 の動き	・得意先からの話で9月まで受注台数の予測が立ち、3月に計画した予算以上の生産量が見込める。
		通信業(経理担 当)	それ以外	・電化製品等の製品価格が上昇傾向にあり、需要は出てきている。

	金融業	取引先の様子	・大企業の在庫調整が終わり、景気は底を打ったと考える。しかし、中小企業は資金繰りが限界に達しており、セーフティーネットや雇用調整助成金によりしのいでいるほか、本格的な受注回復のめどは無く、先行きの見通しは暗い。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・取引先の在庫調整にめどが付き、減産幅を緩和する企業が出てきている。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・取引先からは、天候に恵まれ、例年と比べると販売量は好調であると聞く。ただ、新型インフルエンザの影響等で観光関係の動きがかなり鈍く、飲食関係も依然本調子ではなく、タクシー等もかなり厳しかったようである。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・受注が回復し始めている取引先が出てきた。
変わらない	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・全く受注が伸びていない。多くの工場が助成金を利用して、今をしのいでおり、全く良い状況ではない。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・各社3月決算が出そろい、業界のほとんどが前年比20%程度の落ち込みとなっている。全体的に上向き気配は無く、物件の予算もますます下がっている。正に体力勝負となりつつある。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合い件数が少ない上に競争が激しく、引き合い価格を原価に近い状態にしても受注出来ない状況である。
	輸送業	受注量や販売量の動き	・前年に減少した荷物の量が横ばいで推移しており、増加傾向にない。
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・預かっている荷物の荷動きが、業種に関係なく悪い。
	金融業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・クレジットカードの利用額が減少しており、消費の縮小がうかがえる。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・公共工事削減等により、非常に厳しい環境下にあることは3か月前と比べて全く変わらない。各社は生き残りをかけて経費削減をするなど、企業努力で何とかしのいでいる。
	金融業（営業職渉外係）	取引先の様子	・全国緊急資金の借入により、一時的に企業の資金繰りは改善したかにみえるが、景気の回復が遅れていることにかえて多額の借金が残り、企業業績を圧迫している。政府は景気が底を打ったと発表した。実体経済は全く回復していない。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・緊急対策制度資金の利用により、大半の中小企業は資金繰りが安定している。
やや悪くなっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・先月までは順調であったスーパー向け加工品が、今月は極端に悪くなっている。冷食加工メーカー向けの納品はまだ引き合いがあるが、少し弱くなってきた。居酒屋向け商品は少し動きが出始めている。
	農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・エサが値上げされ負担増となっている。数か月前からすると厳しくなっている。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・販売価格の競争が激化しており、半値で受注する状況が定着している。それでも競争しなければ半分の価格でも受注できず、大変厳しい状況である。
	その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・景気は底を脱し、景況感も改善方向にあるという報道を目にするが、当社の受注量は3か月前に比べ、更に20%近く落ち込んでおり、全く改善していない。
悪くなっている	農林水産業（営業）	受注価格や販売価格の動き	・畜産業界は、相場よりも市場価格が下がっていることや流通量の減少もみられ、厳しい状況である。小売りも悪い状況である。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現状の受注状況は思わしくなく、同業他社には週3日制の導入や何人か休ませるといった企業もある。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・月末になり見積依頼が来るようになった。しかし、それも秋口の仕事で今の状況が改善するような話ではない。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・中堅クラスの焼酎メーカーの動向が厳しくなっている。売れないので店頭から商品が消えている。
	経営コンサルタント	受注価格や販売価格の動き	・コンサルタントの仕事は一般的に量が減っており、単価も落ちている。一方で、このように悪い時期において、基本を見直そうという企業の動きが出ている。

		その他サービス業	競争相手の様子	・市町村が民間のコンサルタントに発注するアンケート調査や計画作成業務は、入札で業者が選ばれるが、価格競争が激しくなっている。具体的には予定価格の半以下や3～4割で落札しており、ほとんど利益が生じない状況となっている。その場合、他の市町村でも同じ業者が同様に落札しているため、他の業者が受注する余地がなくなっている。
雇用 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・就職セミナーの受講数が落ち着いてきた。また受講生の年齢層も中高年が中心となってきており、若年層の雇用は若干回復している。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・若干ではあるが、注文が増えてきている。また、直接雇用の仕事が決まったという登録スタッフも多く出てきている。	
	変わらない	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・春先よりは人材の募集が増えているものの、継続するまでにはない。各社が継続で雇用募集をかけるまでは時間が掛かる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・自動車産業の多い北部九州でも環境対応車の需要が増え、求人が増えており、一時帰休が解除になる動きがある。しかし、以前の水準にはほど遠く、現状と変わらない状態が続いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数をみると前月比14.6%の減、前年比でも31.7%の減となっている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・非正規労働者の雇止めの事例は少なくなってきたが、閉鎖に追い込まれる事業所もあり、景気は底の状態で推移している。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・採用見合わせの企業が依然として多い。
	やや悪く なっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前月比で28.8%減少し、前年比で37.9%減少している。製造業を中心に主要産業のほとんどが前月及び前年同月と比べ減少している。
		学校〔大学〕（就職担当者）	求人数の動き	・平成22年3月卒業予定者に対する求人受理件数は、3か月前と比べて更に減少傾向にある。また、採用予定数に関しては、例年を下回る規模や若干名という記載が多い。ちなみに、現時点での就職内定保有率は例年よりも低い水準にある。
悪く なっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・半導体関連の在庫調整が進んだとの報道があるが、雇用拡大にはつながっていない。その他産業においても求人の動きが全くない。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人先の仕事量が少なく求人の必要がない、人が辞めない等の理由により求人件数は激減している。求人の際、幅広い範囲で応募をすると採用効率は上昇する。	
	新聞社〔求人広告〕	求人数の動き	・先月に比べ求人数の減少傾向に歯止めが掛からない状況である。景気の底打ち感は全く見えてこない。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・ボーナスの減額傾向等もあり、消費者は出費を抑える傾向が強く、飲食店を始め地域にお金が落ちない。求人広告の動きも鈍い。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で8か月連続の減少となったが、それに対し新規求職者数は増加から減少に転じた。有効求人倍率も前月に引き続き0.4倍台を記録した。	
	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・3月末に大量の契約終了となったが、後任の求人がないまま6月末に新たな契約終了も発生し、契約終了の数は減少していない。九州でも地方に行くほど求人の動きは完全に止まっている。	
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・新規求人は前年の金融危機以降、上昇気配を見せることなく、依然低下し続けている。新規需要は前年比で4割減少し、追加や増員オーダーも皆無の状況である。	